

和賀川におけるオオハクチョウの営巣

村瀬美江

024-0012 北上市常盤台2丁目2-17

北上市南部を流れる和賀川に架かる和賀大橋のもとにオオハクチョウが営巣し、抱卵しました。2005年5月中旬より抱卵が始まりましたが、4卵のうち1個は川の中・水中に落ちており、3卵を暖めていました。6月26日になっても卵は孵らず、6月27日早朝より大雨となり、増水して夕方6時8分に抱卵中の巣ごと流されてしまいました。

親鳥雌は岸へ泳ぎ着きましたが、巣は二つに割れ、卵と巣ともに流されました。上流にダムがあり、放水が7時にあると連絡がありましたが、その前に巣は流されました。夜が明けましたが、川は増水したままで、親鳥は巣のあった場所近くをめぐり、頭を水中に入れて卵をさがしている様子でした。他の4羽は岸近くに集まっていた。

1993年(平成5年)のこと、夜に電話が入り、九年橋の下に傘の柄がささったハクチョウがいるとのこと。夜明けに急いで出向くと、傘は取れていましたが、出血がひどく、羽根を赤く染めていました。数日間出血は止らず、声をかけたり見守ることだけしかできませんでした。その後、どこからともなく片羽根欠損のハクチョウが集まり



図1. オオハクチョウの営巣環境。

越夏するようになり、皆飛べない鳥で、多い年には9羽も集まっていました。九年橋～和賀大橋～広表橋に1年を通して滞留していました。その中で番ができ、2004年と2005年2年続けて巣作りし、抱卵しましたが、2年とも川の増水により、巣、卵とも流出しました。



図2. オオハクチョウの巣、2005年6月29日。